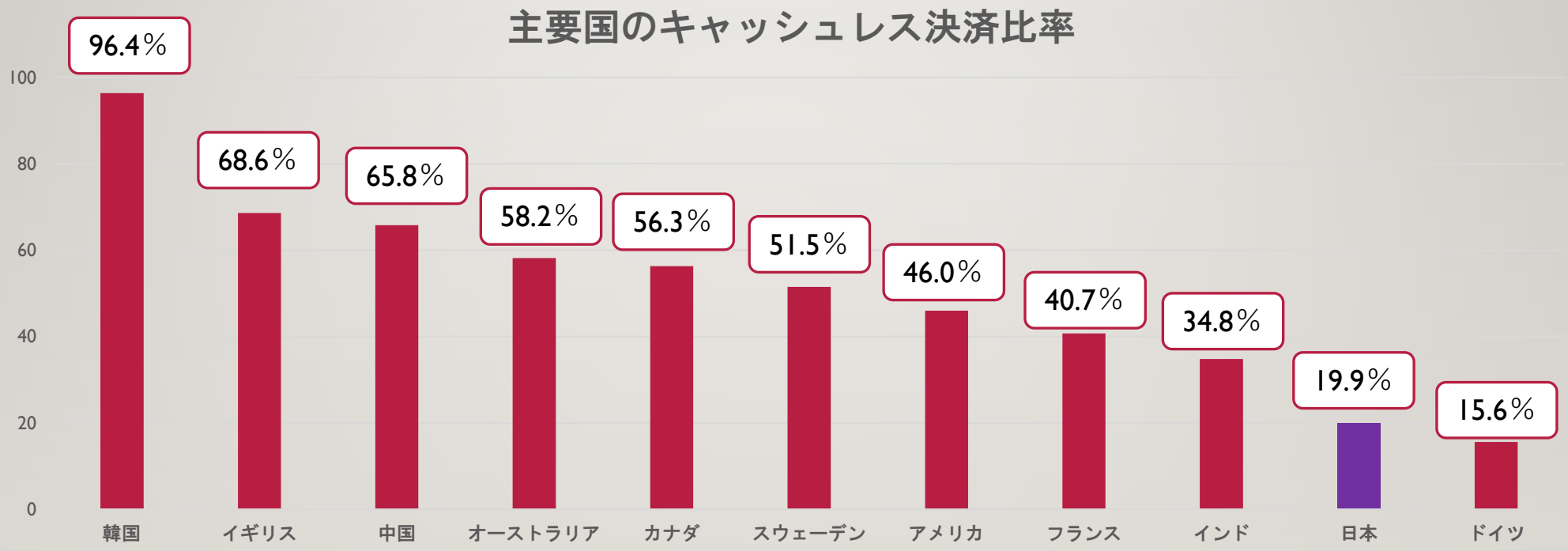
日本の未来④
なぜ、「キャッシュレス」なのか？

キャッシュレスに隠された狙いとは？

主要国のキャッシュレス決済比率
※2016年データより



政府が「キャッシュレス」を推進する狙い

【観光立国の実現】

- キャッシュレス化が進む世界に対応して、日本のキャッシュレス環境を整え、訪日外国人観光客を長期的かつ安定的に誘致したいから

政府が「キャッシュレス」を推進する狙い

【現金流通コストを削減】

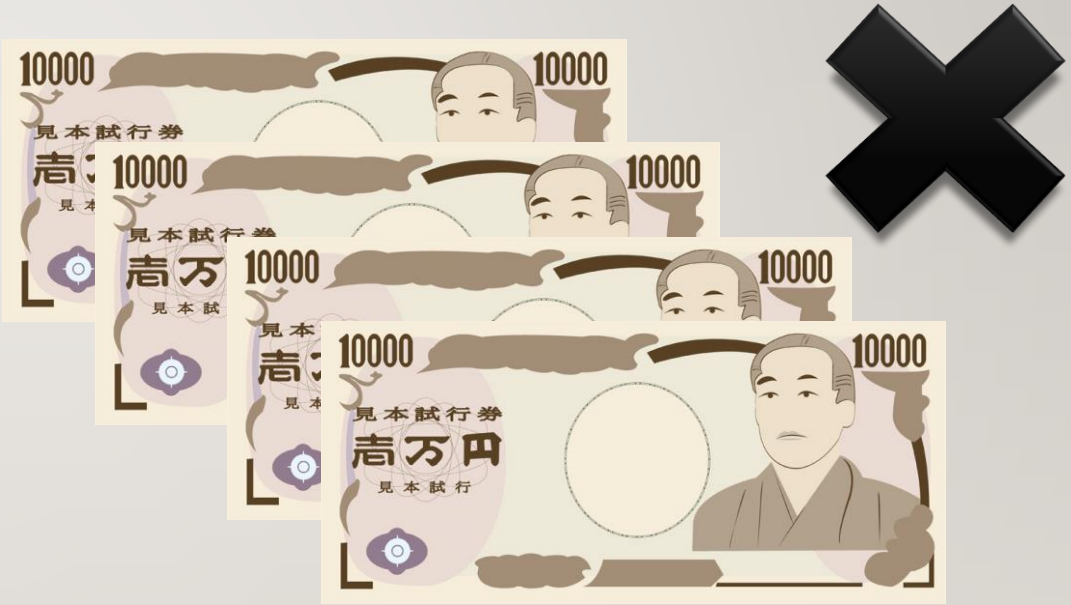
※みずほフィナンシャルグループ試算

- 年間で、金融界（現金管理やATM運営コスト等）で約2兆円、小売りや外食産業（現金取り扱い業務人件費等）で約6兆円のコストが発生していると考えられるから

政府が「キャッシュレス」を推進する狙い

【税収向上】

- 匿名性の高い厳禁に比べ、電子マネーや電子決済は記録が残るため、キャッシュレス化でお金の流れを捕捉し、徴税を徹底できるから



政府が「キャッシュレス」を推進する狙い

【消費活性化】

- 個人の消費行動などのビックデータを活用することで、消費活動を活発化することができるから
- 消費の利便性にも大きく貢献することもできるから

「キャッシュレス」後進国、日本の未来とは？

- 1ページ目の資料より、他国と比べて、現金での支払いが多い日本は、「キャッシュレス後進国」と言われてきました。
- それでも、日本もキャッシュレス化を推進（クレジットカードやペイペイなど）してきている。政府は、2025年までにキャッシュレス決済率を40%に高める目標を掲げており、2019年10月の増税時には、キャッシュレス決済に最大5%還元という優遇策を打ち出した。
- ただし、不正利用も発覚した（2019年7月に発覚した７PAY）ため、セキュリティ対策の強化などが課題